

## 趣味のひとつ オールディーズ

### 第9巻 スクリーン・ミュージック

前回は、ソウルミュージックを取り上げましたが、今回は懐かしい映画音楽を取り上げましょう。

#### ◆共通点

1961年の「ティファニーで朝食を」と1963年の「シャレード」には幾つかの共通点があります。まず主演女優はオードリー・ヘプバーン（1929年生）です。

「ティファニーで朝食を」の主題歌「ムーンリバー」と主題歌「シャレード」はどちらもアンディ・ウィリアムス（1927年生）が歌ってヒットしました。もう一つ、どちらもヘンリー・マンシーニの作曲した曲です。「ティファニーで朝食を」での自由奔放な美女、「シャレード」での夫の不可解な死に怯える妻という両極端の演技を見事にこなしたオードリーはやはり大女優です。ところで、“ヘプバーン”なのか“ヘップバーン”なのか。ローマ字のヘボン式を広めた米国人のJames Curtis Hepburnと同じ名字なので、オードリー・ヘボンが実際の発音に近い気がします。アンディ・ウィリアムスはフランク・シナトラと並び「最も標準的なアメリカ英語で歌う歌手」と言われ、歌詞の一つ一つを訛のない発音で歌っており真似して歌えば英語の発音練習にもってこいです。

#### ◆ミュージカルと言えば

ジュリー・アンドリュース（1935年生）でしょう。1964年の「メリー・ポピンズ」で実質デビューし、いきなりアカデミー賞主演女優賞に輝きます。翌年の「サウンド・オブ・ミュージック」でミュージカル女優の座を不動のものにします。「メリー・ポピンズ」ではディック・ヴァン・ダイク（1925年生）と歌った「チム・チム・チェリー」がヒットし、「サウンド・オブ・ミュージック」ではクリストファー・プラマー（1929年生）と共演し「ドレミの歌」がヒットしました。2000年代になりアン・ハサウェイ（1982年生）主演の映画「プリティ・プリンセス」シリーズにアンの母親（仮想国の女王）役で出演していました。

#### ◆ミリタリー映画

戦争を題材にした映画の中にも有名な主題歌がありました。1957年の「戦場にかける橋」の「クアイ河マーチ」と1963年スティーヴ・マックイーン（1930年生）主演の「大脱走のテーマ」です。「クアイ河マーチ」は1914年に作曲され

た「ボギー大佐マーチ」をアレンジしたもので、今では「クアイ河マーチ」として知られるようになりました。この曲はミッチ・ミラー合唱団が歌っていますが、ミッチ・ミラー合唱団と言えば「史上最大の作戦マーチ」です。この映画に出演したポール・アンカが、ロケ中に作詞作曲したと言われています。勇ましい曲を得意にする克美しげるが“…いつも戦いはつらいものだぜ…”と日本語カバーで歌っていました。ちなみに原題“The Longest Day”を「史上最大の作戦」と名付けたのは水野晴郎（昭和6年生～平成20年没）です。

#### ◆戦争に巻き込まれた子供

戦争はいつの世も子供達を巻き込み、運命を変えてしまいます。1952年のフランス映画「禁じられた遊び」はナルシソ・イエペスのギターが奏でる「愛のロマンス」が有名です。この曲を弾きたくてギターを始めたものの、あんなに上手く弾けるはずもなく、挫折したご同輩も多かったのではないのでしょうか。この映画はナチスドイツ軍に追われて逃げてきたフランスの少女、ポーレットが主人公です。フランス人が迫害を受けた側の映画ですが、迫害した側の映画が1955年のスペイン映画「汚れ無き悪戯」原題「マルセリーノ、パンとワイン」です。19世紀初頭、ナポレオン軍の侵攻によって孤児となったスペインのマルセリーノ少年が修道院で育てられ、奇跡を起こす物語ですが、テーマ曲「マルセリーノの唄」は物悲しいメロディで映画に良く合った曲でした。映画の主題歌ではありませんが、ダーク・ダックスが1964年に歌った「アンジェリータ」も戦争に巻き込まれた少女を歌った曲です。1944年の米軍によるイタリア半島東部のアンツィオ上陸作戦を題材にしています。“…かたく握った 小さな手には 四つの貝殻が…”と言うフレーズを聞くと今でも胸が痛みます。

#### ◆イナバウアー

荒川静香選手でお馴染みになった演技「イナバウアー」ですが、琴奨菊の「琴バウアー」のように「反り返る」技だと思っていましたら、どうやら「つま先を開いて横に滑る」技らしいですね。語源の由来はドイツのフィギュアスケート選手のイナ・バウアー（1941年生～2014年没）で、彼女は、元アルペン選手で俳優になったトニー・ザイラー（1935年生～2009年没）と映画で共演しています。彼は1956年のコルティナ・ダンペッツォ冬季オリンピックで史上初のアルペン三冠王になり、その後映画俳優に転じ主演映画「白銀は招くよ」（1959年）の主題歌も歌っています。ちなみにアルペン三冠王は1968年のグルノーブル冬季オリンピックでジャン・クロード・キリー（1943年生）が達成しています。同オリンピックはクロード・ルルーシュ監督の記録映画「白い恋人たち」でフランシス・レイが作曲した同名の主題歌がヒットしましたね。北海道土産の「白い恋

人」を食べると、この映画を思い出します。

いかがでしたか、映画音楽も沢山あり、その中から個人的な視点で選曲しましたが懐かしんで頂けたでしょうか。次回は「曲名で振り返るオールディーズ」をお届けします。

#### <007シリーズ>

1963年に第2作の「ロシアより愛をこめて」の主題歌がマット・モンローの歌でヒットします。ショーン・コネリー（1930年生）演じるジェームズ・ボンドがなにしろカッコ良く、続く「ゴールド・フィンガー」「サンダーボール作戦」「007は二度死ぬ」を夢中になって観たものです。「007は二度死ぬ」には浜美枝（1943年生）がボンドガールとして出演し話題になりました。「ゴールド・フィンガー」の主題歌はシャーリー・バッチーが、「サンダーボール作戦」の主題歌はトム・ジョーンズが、「007は二度死ぬ」の主題歌はナンシーシナトラがそれぞれ歌いヒットしました。思うに“寅さんは渥美清”であるように“ジェームズ・ボンドはショーン・コネリー”なのであって、他の俳優が演じるジェームズ・ボンドは違和感があり、あまり観る気がしません。特に最近のダニエル・クレイグ（1968年生）はニコール・キッドマンと共演した「インベージョン」（2007年）や対ナチスのレジスタンスを描いた「ディファイアンス」（2008年）等に出演し、渋くていい俳優さんですが、なにしろ「悪役顔」（笑）なので、“敵方のスパイにお似合いですよ”と映画製作会社に言いたいです。